

第1回松島町子ども・子育て会議録（要約版）

日時 平成25年11月25日（月） 10時～

場所 松島町文化観光交流館（2階講座室）

出席者

委員：遠山勝雄会長、瀬野尾千恵委員、佐々木勝義委員、土井いく子委員、袖井智子委員、平井素子委員、浅沼千暁委員、岡田康子委員、千葉圭子委員、三品ひとみ委員

事務局：阿部町民福祉課長、鷹平福祉班長、田瀬主査、大泉保育士、榊ぎょうせい

次第

- 1, 開会
- 2, 委嘱状の交付
- 3, 町長挨拶
- 4, 委員の紹介
- 5, 会長の選出
- 6, 職務代理者指名
- 7, 諮問
- 8, 議題
 - (1) 子ども・子育て新制度の概要、運営要領の制定
 - (2) ニーズ調査内容説明
 - (3) 質疑応答
- 9, 閉会

【質疑、意見交換】

会長：只今事務局から説明がありましたが、ご意見やご質問があれば忌憚なくぜひお願いします。

委員：学校教育も関わっているならば、教育委員会の参加はないのですか。

事務局：今回は参加していないが、役場内で調整はしています。今後の会議については教育委員会にも入ってもらう予定です。

会長：今の話しは大事なことです。話し合いをする中で、認定子ども園を議論する際にどの立場で議論するのか。文科省か厚労省にするのかで、今までうまくいかない部分もありました。町として必要性を感じているならば教育委員会にも入っていただきたい。他にご意見あればお願いします。

委員：イメージとして認定こども園ができるのであれば、保育所と幼稚園は一緒の施設としてやっていくことになるのですか。

事務局：現在出生66名となっており、子供の数も減っている。以前もこのような話にな

ったが、学校をなくすことは文化もなくなるということになります。今回の計画の中では、方向も見出していきたいと思っています。認定こども園や学校の在り方、幼稚園の保育年数等、高度な教育を国は求めています、町としてどのようにして入れていくのか考えていかなければならないと思っています。

会長：ありがとうございます。今お話しあったように、松島町でも以前に認定こども園について議論したが、厚生労働省と文部科学省の圧力で補助金を切るということになり、それをくぐり抜けるために試行的に分園という形で行っています。その部分について、委員お願いします。

委員：幼保連携施設で4年間園長をしていましたが、現実をとして文科省と厚労省の壁のようなものも感じていました。保育所の子供が幼稚園で教育を受け、時間になると保育所に戻ってくるという形態で過ごしており保護者には評判がよかったのですが、子どもたちの中では保育所と幼稚園の壁があるため、一緒に遊んでいながらもお互いに「違う」という気持ちを持って過ごしていたように思います。やるのであれば文科省、厚労省一本化になってできれば素晴らしいと思います。幼稚園、保育所のそれぞれの良さがあるので、松島らしい認定こども園ができればいいのではないかと感じています。これからの策定の中で今までの経験生かしていければと思います。地域に根ざした幼稚園と保育所の機能を持ち、子どもたちにとって負担なく過ごせる環境、施設が必要だと感じています。

会長：ありがとうございます。今お話しいただいたように何としても認定こども園を作りたいということで国にも働きかけたが、文科省が弱腰だったんですね。幼稚園の時間8時30分から12時まで限定で幼稚園としては出来ないし、保育所を希望する方については、7時からしなければいけないということでその中でどうやったら幼稚園機能と保育所機能生かしていくかで話し合いを重ねていったが、苦肉の策で保育所に入ってもらって午前中は幼稚園に行き、お昼には帰ってくるということで補助金の削減を免れました。しかし、保育所の方は給食センターからの給食は出してもらえないということもあり、施設を高城保育所分園とし、高城保育所の給食を運搬するようにしています。結局、補助金の締め付けに勝てなかったのが現実です。分園は継続しているが不安定な中で保育をしているというところです。幼児教育が必要ならば幼稚園でも保育所でも幼児教育は必要だろうということをいつてきたが、壁は厚かったです。今回の会議の中でこの壁が取り払われたらすごいと思いますが、それを恐れず議論できたらと思います。他にご意見ありませんか。

委員：会を進めていくにあたり、今日の時点で内容の話をいただき、次の会ではニーズ調査の結果となっているので、その間に意見の調整や文書等頂ければありがたいです。

事務局：9月議会で条例可決したが、ニーズ調査が先行しなければならず、12月には国に回答しなければいけません。町としても話し合う時間が必要と思っていますが、ぎょうせいさんからの意見も聞かせてもらい、ニーズ調査をまとめていきたいと思

っています。今回は皆さんにニーズ調査案を提示させていただき、ご意見あれば事務局に連絡いただきたいと思います。

会長：皆さんの意見を反映させていきたいと思います。ニーズ調査の設問についてやり方によってある程度回答決まってしまうので、その辺りに配慮するとともに今日の委員さんたちの意見を十分伺ってほしいと思います。

委員：今回の会議で内容わかりましたので、次回からもう少し質問したいと思います。

会長：委員さんに意見を書いていただく、メモ等渡すと意見を出しやすいと思いますので配慮をお願いします。

委員：松島の施策の中身がわからないところがあるので、松島町が抱える子育てに関する施策の資料があればよかったですと思います。

事務局：今の件について、次世代育成計画取りまとめている最中になっています。今、松島町がどのようになっているのか、保育所の入所人数や留守家庭等、内容の問題点などの現状を数値で出したいと思っていましたが、今回間に合わなかったので次回出したいと考えています。近隣の市町村との比較や松島町がどういった施策をしているのかを出そうと思っています。

会長：たくさん資料あるが、総合計画など薄くてもいいので、松島町の施策の資料等も準備するといいいのではないのでしょうか。

事務局：そうですね。わかりました。

委員：まだ具体的にピンと来ないところもあるのですが、先ほど幼稚園と保育所との隔たりについて話されていましたが、これから幼保一体化での隔たりの部分や内容を検討していくのでしょうか。また所得によって保育料が変わったりするのかといったこともこれから議論していくことになるのでしょうか。

事務局：食育については、幼稚園・保育所一体化の際は一緒がいいと思っています。ただ、費用について、幼稚園は給食費、保育所は保育料に含まれているので、その部分も考えていかなければならないです。在り方については、一緒に教育を受けるのが理想ですが、教育の中身をどのようにするのがこれからの大きなテーマになると思っています。

浅沼委員：続きになるのですが、2人目を出産するときに息子を幼稚園に入れようかとも思っていますが、高度な教育をしているように感じていました。話を聞いてのびのび過ごしているともお聞きしましたが、今後一本化するのであれば、学校に上がるときに不安のないような、そして家庭でできないような細やかな教育も統一されていくのかと期待もしています。

会長：松島は仙台も通勤圏内ということで、そのようなところも踏まえるし、子どものためには何が必要かを考えて皆さん意見を出していくことが大切ですね。この会では勇気を持ってそれを審議していきましょう。

委員：私は横浜市に住んでいましてその時長男は私立幼稚園に通っていました。その後松

島町に引っ越してきて五幼、五小の人数の少なさに驚きました。認定子ども園ができるならば、学区を超えて入所できるようにしてほしいと思います。いろいろ勉強していきたいと思います。

会長：ありがとうございます。一通りご意見いただきましたので、要領について皆さんにご承認いただいてよろしいでしょうか。では、皆さんのご承認をいただいたということでニーズ調査の説明に移らせていただきたいと思います。

【ニーズ調査について説明】

会長：充実した内容かと思うがニーズ調査については、意見が偏ることを防ぐためにもわかりやすい言葉を使い、配布時期や総ページ数にも気を付けて回収率を下げないようにしてほしいと思います。

委員：対象者は何人ですか。

事務局：概算ですが、就学前500人、小学生600人、計1,100人とみています。

会長：小学生の家庭の回収率は高く見ているのですよね。

事務局：そうですね。出していない家庭には催促の声掛けを学校からしていただいたり、はがきを郵送し提出を呼びかけていく予定です。

会長：やはり重要なことは回収率ですね。回収率が低いということはそれだけ意見が偏ることなので、60%はほしいですね。配布時期、回収方法についても検討していただきたいです。他にご意見ありますか。

委員：町長から子ども子育てについての話しかなかったのですが、町の方針としてどのようにしていきたいと思っていますか。

事務局：町としてというよりも課としては、来年度児童館を建設する予定であり、そこで留守家庭も行っていきます。児童館ができることで子どもたちのスタイルも変わっていくのではないかと思います。また、保健福祉センターにある子育て支援センターを児童館に移し、相談しやすい場所に移すことで利用しやすい施設としていきたいも思っています。力を入れたいと思っているのは、松島らしい教育や家庭教育の質の向上、特に幼児期の体力向上で学力向上を目指していきたいと思っています。

委員：なぜこういった話をしましたかというのと、中1の長男が小学校前に、よりよい教育環境を求めて利府や仙台などに次々転出していきました。教育を取るのであれば仙台に引っ越したいとも思います。町の住民のニーズを拾うことも重要だと思いますが、転出された方がなぜ出て行ったのか聞いてみることも大事だと思います。また、課長の話された体力向上について非常に共感するが、いざ遊びに行こうとすると遊べる場所がほとんどないと思います。みんなが集える公園がないというのが実感です。公園の整備も入るならば建設課にも入っていただけたらうれしい

です。一歩は歩道の整備のため、3月まで遊具の半分以上使えないけれども、残っている遊具も故障等で使えないものもあります。体力向上といいながらも環境が追い付いていないと思います。そのようなところも検討していただければと思います。

会長：今お話しいただいた件については、絶対に必要なものだというので県の共同募金会でも遊具を目標とした募金も始めるということなので、松島町でも受け入れ態勢を作っていないと制度があっても受けられないということになります。そのため、議論の対象に入れておきながら、そういう制度があつたらいち早く取り組んでいくようにしてほしいですね。

委員：今日はあまり話をしない予定でしたが、今の話題がありましたのでお話しさせていただきます。町には安心して遊べる施設がない。松島はひどいとよく私は言っています。行政に逃げ口上だけはしてほしくないと思います。例えば、町民の森の遊具も10年経ち、木が腐ってきて撤去しましたが、その後新しい遊具は作らないと言います。そんな中途半端なことがあっていいのでしょうか。いくらいい施設が充実しても、環境が整っていないと転出にもつながります。私にも経験があるのですが、いい環境を求めて転出していった家庭を何件も見てショックでした。たぶん松島はあまり進歩していないと思います。このような会議に出させてもらうならば、次回からはバンバン意見を言いたいと思います。

会長：このように、こういう場で広く意見を出していただかないと、与えられた議題では遊具の話はなかなか話題に出てこないです。ですから、このような機会を逃さないようにしていきたいですね。

委員：今、お話を伺いました松島の教育全体について、ぜひ次回は松島町教育進行基本計画を皆さんが持つと分かりやすいですね。どう教育したらいいのかの基本方針となるので、その中身も変えた方がいいのかなどについて、議論をしていければと思います。ひとつお願いします。また、質の高い教育をどのようにしていくか、どういことが質の高い教育なのかを考えていければと思います。自然も多く、全て公立という町はなかなかないので将来に期待しています。

委員：私もそう思います。今は物があふれていて、子どもたちが既製のものばかりで遊んでいます。町には親子で体を使って遊べるようなところ、お金があまりかからずに1日遊べるようなところがないですね。せっかく自然があるので町民が利用できるようなところがあればいいと思います。

会長：他にはありませんか。

事務局：今までのお話を聞いていて思ったことは、子育ての会議を進めることによって町としては定住化が目標ですね。子育て支援が充実することで定住促進につなげていければと思います。

会長：町長は子ども・子育てには力を入れたいと思っています。それなりにある

べき姿を出していかないと、せっかく話し合っただけなのにこんなもんかと言われてたら悲しい話ですし、皆さんにもよろしくお願ひしたいと思ひます。他にはありますか。

事務局：資料の8について、松島町の計画に向けて現状を簡単にまとめたものや今後のスケジュールが載っていますので、ご参考にしていただければと思ひます。

委員：子どもの声が聞こえないのはさみしいですね。

事務局：昨年は出生66名と信じられない数になってきています。

委員：どこに子どもがいるかもわからないですね。

事務局：5小学区は遊んでいますか。

委員：くぬぎ台は今すごいですね。

委員：今はなかなか外で遊んでいる子どもも少ないですね。

事務局：山形県南陽市の公園はすごいです。芝が敷き詰められておとぎの国のようです。他町からも遊びに来ています

委員：岩手県の子どもの国もすばらしいです。毎年行きたくなる場所です。

事務局：来年度の策定に当たって、視察も必要かもしれませんね。

委員：横浜にも子どもの国があり、1日中遊べていました。松島町は大人には魅力的な観光地だけでも、子どもにとってはどうなんだろうと思ひます。

委員：他市町村の公園も震災で無くなり、町内に1日遊べる施設があるとうれしいです。

委員：テレビで見たのですが、山形の山寺で、輪番制で地域の交流を大切にしているというのを見ました。地産地消とともに、町おこしだと思ひました。これからの時代子どもや老人が安心して暮らせる町でないと滅びてしまいます。松島は地産地消もたくさんあるしぜひ模範的な町としてやっていってほしいです。

会長：何か松島町にもウリがほしいですね。じんじんの剣淵町のように絵本での町おこしというのもおもしろいですね。何か特徴を出していかないといけないですね。

委員：児童館もありきたりのものではなくて、他市町村から見学に来てもらえるようなものを作っていただきたいです。

委員：娘が学童保育を7:30~18:30で利用しているが、平日はいいが夏休み等は1日中室内で過ごし外に出してもらえず、以前は学校のプールにも連れて行ってもらえたがそれもなくなってしまいました。外で遊ぶ場所もないのでそのような施設も併設されているものを作っていただけたらと思ひます。

委員：学童も6年に延びるかもしれませんね。

委員：そうだといいですね。しかし、6年生まで延びたとしてもお友だちが来なければ行きたくないということもあるし、年を経るにつれて来なくなる子どももいるので難しい問題ですね。

事務局：グラウンドや体育館も周りにあり、条件は整っており、これから多目的の屋根つきの施設を造る予定です。運用上は幅広く活動はできると思ひます。実を言うと、今は教育委員会で学童をしています、来年度からは福祉課に来る予定です。指導

員とも話し合いをしながら、解決していきたいと思います。

会長：今日のところはこんなところで大丈夫でしょうか。それでは、閉じさせていただきます。